

		<p>訪問先: 財団法人 下川町ふるさと開発振興公社(五味温泉)他</p> <p>審査内容: (1)本プロジェクトが、プロジェクト申請書及び同別紙モニタリング計画書並びにモニタリング報告書記載の通り実施されているかの確認を現地視察、プロジェクト関係者へのインタビューにより実施。特に、モニタリング体制、計測機器及び計測データ等の確認状況、並びに QA/QC 体制について確認した。 (2)モニタリング報告書記載の算定結果を集計データによってチェックすると共に、その適格性(適用デフォルト値を含む)、計測器並びに計測データ等の確認記録について検証をおこなった。特に、 <ベースライン排出活動> 熱量システムにおける計測データ、実績管理表による発熱量及び温度計測における不確かさ評価並びに電力使用量他 <プロジェクト排出活動> 木質バイオマスの原料購入量、木屑チップ及び粉碎バークの出荷量、燃料(A 重油)購入量、及び電力使用量他</p>				
排出削減・ 吸収量	年度	2008	2009	2010	2011 (~7/31)	2012
	t-CO2	—	459			—
検証結果の要約		<p>JACO CDM は、下川町内の公共施設で最も化石燃料を消費している公共の温泉「五味温泉」において重油ボイラー1基を撤去後 180Kwの木質ボイラーを導入、又2006(H18)年2月に新築した幼児センターに100Kwの木質ボイラーを導入し、その燃料として、地元製材工場から発生する端材や原木の樹皮(バーク)を使用し、二酸化炭素の削減を図るとともに地球温暖化対策の普及啓発や環境に優しい地域の資源で子供たちを育む森林源循環型社会の形成を目的とする本プロジェクトにおいてモニタリング期間(2009年4月1日~2011年7月31日)における温室効果ガス排出削減量を検証した。</p> <p>検証の結果、本プロジェクトに関する「モニタリング報告書」は、「モニタリング方法ガイドライン(排出削減プロジェクト用) Ver3.0」、及び方法論(E001「化石燃料から未利用の木質バイオマスへのボイラー燃料代替」Ver.6.0)に準拠していることを確認した。</p> <p>また、同報告書に記載された温室効果ガス排出削減量459t-CO₂は、プロジェクト計画書及びモニタリング計画書に基づいて算定されており、J-VER制度妥当性確認・検証ガイドラインVer2.0に規定する重要性の判断基準である5%以内であることを確認した。</p> <p>以上のことから、検証意見は無限定適正意見であることを表明する。</p>				

1 審査担当者、レビュー担当者、外部専門家を含み、それぞれの役割を記載すること。